

# きのこの森から

vol.2



文・写真=きのこ写真家

新井 文彦

コケときのこの共演

## 北海道・ 雄阿寒岳南麓

①きのこの森

【表紙写真】  
傘の直径は1cmにも満たないが存在感抜群のコウバイタケ

【1-2ページ写真】  
朽ちて一面コケに覆われた倒木から発生したヒメカバイロタケ。傘の直径は2cm、高さは3~4cmほど

### 森のオアシス

その場所を見つけたのは偶然だった。ある初夏の早朝、雄阿寒岳南麓に位置する小さな沼を訪れた時のことで、10年以上も昔の話だ。林道脇のスペースに車を止め、踏み跡程度の小径を5分ほど歩くと沼に至る。きのこが少なかつたので、沼からとんぼ返り。もと来た道に戻るのも芸がないと思ひ、脇にそれて笹やぶの中に突入した。しばらく歩くと、突然、笹やぶが途切れ、樹種がミズナラなどの広葉樹からトドマツ

に変わった。

言葉が失って、しばし立ち尽くした……。

コケ、コケ、コケ……。

目の前の林床が、隙間なくびっしりとコケに覆われているのだ。広さは100平方メートルほど。大小さまざまな岩が重なり合って、沢のような地形になっている。周囲の林床がほぼ笹に覆われているだけに、コケの緑がひととき鮮やかで美しい。

沢地形の一番低い場所に、エゾシカの獣道があり（ヒゲマの足跡も！）、それをたどれば、コケを踏





